

(別表第1)

## サービス評価結果表

### サービス評価項目

(評価項目の構成)

#### I. その人らしい暮らしを支える

(1) ケアマネジメント

(2) 日々の支援

(3) 生活環境づくり

(4) 健康を維持するための支援

#### II. 家族との支え合い

#### III. 地域との支え合い

#### IV. より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和 3 年 11 月 18 日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 10名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	2名	

※事業所記入

事業所番号	3870105750
事業所名 (ユニット名)	グループホーム 齋院の杜 1F
記入者(管理者) 氏名	田坂 美紀
自己評価作成日	令和 3 年 10 月 29 日

<p>【事業所理念】</p> <p>1、入居者に対しては、常に一人ひとりの人格を尊重し、人生の先輩として敬い家庭的な環境の下、有する能力に応じた日常生活が送れるように努めます。</p> <p>2、職員は、自分の仕事に誇りを持ち、「家訓」の実践に工夫と反省を心掛けて、「自分や家族が入居したいと思う」職場作りを努めます。</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】</p> <p>1、本人の希望や意向、思いについての把握                  ○介護記録に言動をこまめに記録でき、ケアプランと連動できるように努めた。記録の見直し等を行い、職員間で報連相を徹底し、情報共有できた。</p> <p>2、災害の備え                  ○各種マニュアルを参考に職員間での共有し、研修も行う。新型コロナウイルスの兼ね合いにより、消防士立ち合いの避難訓練の実施はできていない。</p> <p>3、重度化や終末期への支援                  ○新型コロナにより、研修がネット使用のものとなっている。研修を意欲的にできていない。現在、終末期の方はおられないが、今後もご家族や各ユニットで話し合い介護が行えるように努めていく。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】</p> <p>市内中心部から少し離れた郊外の住宅地に、事業所は立地している。職員から信頼され、温厚な代表者は、定期的に事業所を来訪して、利用者や職員の話しに耳を傾けるとともに、「職員の自主性を尊重しながら、事業所をもっと良くしていきたい」と考えている。今年4月に交代した管理者とともに、何でも話し合える風通しの良い職場環境づくりにも取り組んでいる。職員同士の仲も良く、助け合うとともに、工夫やアイデアを盛り込みながら、サービスの質の向上に取り組んでいる。また、前回の外部評価の訪問調査から、介護記録等の様式を見直しに取り組み、職員に周知徹底することができている。さらに、事業所には専属の調理員がおり、創意工夫された献立は、利用者や職員から好評である。県内の感染対策が緩和され、早期に居室で家族との面会を再開し、利用者や家族から喜ばれている。加えて、法人・事業所として、SDGsの活動にも取り組み、3年前から地域の農家等に協力してもらい、年末に市内のひとり親家庭にお米を届ける活動も行うとともに、東温市社会福祉協議会が実施するフードドライブにも協力するなど、地域にも貢献することができている。</p>
---	--	---

## 評価結果表

項目No.	評価項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>I.その人らしい暮らしを支える</b>								
<b>(1)ケアマネジメント</b>								
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	<p>a 利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。</p> <p>b 把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。</p> <p>c 職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。</p> <p>d 本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。</p> <p>e 職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。</p>	◎	<p>本人や家族から話を聞き、想いを汲み取り意向にそよう取り組んでいる。</p> <p>普段の様子、言動を観察し、家族の意見を聞きつつ検討している。</p> <p>面会時や電話確認を行い、本人の想いについて話し合いを行うようにしている。</p> <p>本人の想いに沿った介護計画を家族や職員で共有し、実行した際には記録している。</p> <p>毎月、ミーティング時に利用者一人ひとりについて思いや希望についてカンファレンスしている。</p>	◎	◎	◎	<p>入居時に、事業所ではアセスメントシートを活用して、利用者や家族から、思いや暮らし方の希望などの聞き取りをしている。また、日々の生活の中で、職員は利用者の思いや希望、意向など、一つでも多くの情報が把握できるよう努めている。</p>
2	これまでの暮らしや現状の把握	<p>a 利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。</p> <p>b 利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。</p> <p>c 本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。</p> <p>d 不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかわり等)</p> <p>e 利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。</p>	◎	<p>入所時にアセスメントを元に家族にも協力して頂き、情報を集めている。</p> <p>入居者一人ひとりの有する力を活かしつつ、そして残っている能力を失わないように努めている。</p> <p>日々の様子を介護記録に残し、振り返る事で前後の状況を把握できるように努めている。</p> <p>ミーティング等で要因について話し合い、主治医や家族の力を借りながら把握できるように努めている。</p>	◎	◎	◎	<p>入居時に、アセスメントシートを活用して、利用者や家族から生活歴などの聞き取りをしている。管理者等は、「どういう居室で生活を送りたいか」などの利用者の気持ちを大切に支援にも取り組んでおり、使用していた布団やまくら、ぬいぐるみなどを自宅から持ってきてもらっている。ここ1年は、病院や施設から、事業所へ利用者が入居につながる事が多く、家族や施設の担当者から情報を聞くとともに、病院からサマリーの提供を受けることもある。また、把握した情報はアセスメントシートや介護記録に記載し、職員間で共有している。</p>
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	<p>a 把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。</p> <p>b 本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。</p> <p>c 検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。</p>	◎	<p>集めた情報を元に話し合い、本人の想いや希望は何なのか本人の視点に立って検討している。</p> <p>本人の思いや家族の意見を元に必要な支援について検討している。</p> <p>入居者一人ひとりに対するケアの評価を元により良く暮らせているかの確認をしている。</p>	◎	◎	◎	<p>担当職員を中心に、「どこに行きたいか、住んでいるところの生活の継続の希望」などの利用者の思いを聞きながら、希望がかなえられるように、常に利用者本人の視点に立ちながら、検討をしている。また、穏やかな生活が送れるように、利用者一人ひとりの個別ケアにも取り組んでいる。</p>

愛媛県グループホーム斎院の杜

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	今までの暮らしや想いを施設でも反映し馴染みのある生活が継続できるようにしている。				利用者の意見を聞くとともに、関係者の意見を踏まえて、各ユニットで、月1回のミーティングや日々の申し送りを活用して、職員間で意見やアイデアを出し合いながら話し合い、計画作成担当者が介護計画を作成している。また、計画には家族の意見を反映するとともに、可能な範囲で、利用者の今までの暮らしの継続にも取り組んでいる。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	◎	ミーティングや申し送りで必要な話し合いを行っている。また、運営推進会議等で家族や地域・行政の助言を頂きながら取り組んでいる。	○			
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	◎	今までの生活歴と施設での生活を比べて慣れ親しんだ生活が出来るように努めている。				
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	◎	家族に行事の案内を出し、参加依頼を促し、地域の方々にも協力して頂き、利用者一人ひとりが地域で暮らせるように支援している。				
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	◎	職員それぞれが担当の入居者様を持ち、介護計画のアセスメント・モニタリング・評価して知識を深め、ミーティング時に共有している。				◎ 各ユニットで、月1回のミーティングを活用して、介護計画の内容を共有するとともに、サービスの実施記録時には、介護記録の様式に記載してあるサービス内容等を確認しながら記載することができる。前回の外部評価から、職員間で検討して、介護記録等の様式の見直し、周知徹底をしている。また、管理者は記録が職員の負担にならないよう、普段見られないような行動やしぐさ、何をしたかなど、変化を見逃がさずに記録に残すよう指導している。さらに、職員のアイデアや気づきがあれば、管理者に相談するほか、申し送り時などを活用して職員間で話し合うとともに、必要に応じて、利用者に数日サービスを試み、介護計画の内容を追加・変更する場合もある。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	◎	毎月末に介護計画のモニタリングをして評価している。介護支援専門員と相談しながら検討している。				
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	◎	本人の言葉や表情・行動等を細かく記録に残すようにしている。変化があればその都度残す。				
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	◎	ミーティングで新しい取り組みについてアイデアを出し合い、記録に残したり、申し送りノートに記載。				
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	◎	6か月の期間で見直し、本人の状態やモニタリング結果から変更する。毎度、家族に報告している。				◎ 入居時には、3か月で介護計画を見直すとともに、入退院時には、1～2か月程度で、計画の見直しをしている。それ以外は、6か月に1回を基本として、計画の見直しをしている。また、担当職員が毎月末に、利用者の状況を確認しながらモニタリングで評価を行うとともに、ミーティング時に報告して、職員間で共有している。さらに、モニタリングの結果や、利用者の状態の変化に応じて、新たな介護計画を作成するとともに、家族に確認することもできている。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	○	毎月末にモニタリング評価している。継続、変更は毎度、相談しながら決める。				
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	◎	状態変化や計画の見直しを行った際は、ミーティングで報告し職員間で共有を図っている。				
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	◎	毎月ミーティングでを開催して話し合っている。緊急案件時には臨時のミーティングを開催する。				◎ 事前に、職員が参加しやすい日程調整を行い、毎月実施する各ユニットのミーティングを活用して、職員間で話し合いをしている。職員が会議の司会を順番に行い、話しやすい雰囲気や場づくりを工夫している。また、緊急案件のある場合には、直ちに職員を招集し、臨時ミーティングを実施することができている。さらに、参加できなかった職員には、議事録や申し送りノートを確認してもらうとともに、内容が変わった場合には申し送り等を活用して、口頭で伝達をしている。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	◎	職員全員が発言出来るように司会者を中心に雰囲気や場づくりを工夫している。				
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	◎	各ユニットで相談し日時やカンパレンスを決めている。				
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	◎	会議自六や申し送りノートに記録し、職員が確認した後にサインを記入するようにしている。				
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	◎	議事録や申し送りノート以外にも、業務日誌の特記欄に記入して共有している。				◎ 朝夕の申し送りを実施するとともに、申し送りノートや業務日誌を活用して、職員間で情報を共有している。申し送りノートには、些細なことを記載するようにしている。また、職員は出勤時等にノートや日誌を確認するとともに、確認後にはサイン欄にチェック等を行い、確実な情報伝達につなげている。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	◎	申し送りノートにもサイン欄があり、目を通して業務に入るように努めている。	◎			

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にしたい支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	◎	本人とのコミュニケーションを通じ、想いに添えるように努めている。個別ケアを設ける事で出来る事を増やす。	/	/	/	職員は、「どっちにしますか」などの声をかけ、外出時の衣服や入浴時の着替え、朝食のご飯かパン、飲み物など、その時々に応じて、可能な範囲で利用者に自己決定してもらえるよう支援している。また、日常会話やレクリエーションの中で、職員は回想をしながら利用者から好みなどを聞き出して把握するとともに、好みの話題や思い出話をしながら、喜びや楽しみにつなげている。さらに、居室や入浴時など、職員と利用者が1対1になれる場面に話しや相談を聞き、より良い生活が送れるよう支援している。中には、ビーズの作品づくりが趣味の利用者もあり、文化祭に出展したり、事業所内に飾ったりすることを支援している。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	◎	自身が服を選んだり、朝食時にご飯かパンのどちらか等。自己決定の機会を作っている。	/	/	◎	
		c	利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	◎	レクリエーションに参加する機会をつくり、日々の作業や生活における声掛け支援にも自己決定をする機会を多くとり、努めている。	/	/	/	
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にしたい支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	可能な限りお応えできるように努め、その時々で柔軟に対応できるように努めている。	/	/	/	
		e	利用者の活き活きた言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	◎	日々のコミュニケーションを大切に、本人の言動を記録し、より良い生活空間の雰囲気づくりに努めている。	/	/	◎	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	◎	表情等の変化に注視し、職員間で話し合い、支援できるよう努めている。	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切にしたい言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	◎	人権尊厳を大切に、プライバシーに配慮した支援に努めている。研修に参加したり、ミーティングにて話し合っている。	◎	○	○	事業所では理念の中に、「常に一人ひとりの人格を尊重し、人生の先輩として敬い」などと掲げて、職員は意識して利用者を敬う声かけや対応に努めている。また、定期的に社内研修や勉強会を実施するとともに、ミーティング時に話し合うなど、職員は人権や尊厳などを学んで理解している。さらに、利用者の名前は名前で呼ぶように努め、不適切な呼び方が見られた場合には、管理者等から該当職員に注意喚起をしている。耳の遠い利用者には、居室で話しかけたり、ジェスチャーや文字や図で示したりしながら、分かりやすく伝えている。加えて、居室からの退室時には、「失礼しました」などと、利用者の目線で話しかけるとともに、居室の不在には、事前に利用者へ「〇〇で入るね」と声をかけ、一緒に入室するなどの配慮もしている。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉がけや対応を行っている。	◎	利用者一人一人に合わせた声掛けや支援をしている。	/	/	◎	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	◎	安心・安全を保ちつつ、羞恥心やプライバシーに配慮した支援に努めている。	/	/	/	
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	◎	居室に入室時にはノックをしたり、声掛けをする配慮をしている。	/	/	◎	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	◎	就業規則にも記載しており、全職員個人情報の取り扱いに理解し、注意し努めている。	/	/	/	
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けをもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	◎	入居者様との関係性を大切にしており、共に助け合う関係性を構築できるように努めている。	/	/	/	日常的に、職員は利用者へ手伝わってもらった場合には、感謝を伝えるとともに、利用者同士や職員と一緒に助け合いながら、生活が送れるよう支援している。職員は、利用者同士の相性や一人ひとりの性格を把握して、座席などの配慮をしている。時には、利用者同士が言い合いになることもあり、職員が間に入って仲介するとともに、利用者へ目を配りながら、トラブルが起こらないよう努めている。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	◎	日常的に入居者様同士が助け合っている場面を伺えたり、ミーティングを通して大切さを理解している。	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)。	○	入居者様同士の関係性を大切にしている。居室でのそれぞれの過ごし方、雰囲気などを大切にしたり、レクリエーションを通して中を深められるように努めている。トラブルの際には職員が仲介している。	/	/	○	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者へ不安や支障を生じさせないようにしている。	◎	職員が仲介に入ったり、散歩に出て、不安な気持ちや和らげられる配慮している。	/	/	/	

愛媛県グループホーム斎院の社

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	◎	入所時や面会時に情報が得られるように家族や知人の方とのコミュニケーションを大切にしている。				
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	◎	本人や家族から情報を得ている。袁達のかたには手紙や電話等で得ている。				
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	◎	コロナ禍で面会制限をかける時もあるが、馴染みの方や親族の方等、面会に来て頂いている。個人で携帯を持っている方もあり交流されている。				
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	コロナ禍で自室内での面会交流は難しいが、玄関で交流できる場を作り、コミュニケーションを取れるようにしている。職員は真に入り普段の様子等をお伝えしている。				
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない)(※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	○	コロナウイルスの影響などで外出する機会が減っている。利用者も理解されていない方もいるが施設周りの散歩野菜の水やりをしてもらう。また、ドライブで気分転換を図れるように努めている。	○	○	○	日常的に、玄関前に置いているプランターの野菜や花の水やりをしたり、事業所周辺の散歩をしたりするなど、コロナ禍においても可能な範囲で、利用者の外出支援に努めている。また、県内の感染警戒の緩和に伴い、利用者と一緒に買い物や外出に出かけることができている。さらに、車いすを使用している利用者の外出が難しい場合にも、1階と2階ユニット間の交流や、ベランダから景色を眺めながら外気浴をするなど、少しでも気分転換が図れるよう取り組んでいる。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	△	ボランティアやサポートではなく、家族の力を借りながら支援している。				
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	○	外出は難しいところもあるが、別ユニットの入居者様や職員との関わりで気分転換できるよう支援している。			○	
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	○	可能な限りお応え出来るようにお努めている。家族への依頼が難しい場合は個別ケアとして取り組んでいる。				
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	◎	外部研修に参加したり、社内研修を通じて認知症の理解を深めている。				事業所の理念には、「有する能力に応じた日常生活が送れるように努めます」と掲げて、毎日のラジオ体操や生活リハビリなど、心身機能の維持に努めるとともに、利用者の生活リズムで過ごせるよう支援している。また、利用者の体調にも配慮をしながら、無理なく利用者のできることやできそうなことを、待つ介護や見守り、一緒に行うなどの支援をしている。さらに、片麻痺のある利用者には、食器を工夫するなど、自分で食べることの支援をしている。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	◎	レクリエーションを通して残存機能の維持を目指し取り組んでいる。日常生活上でも本人のペースで出来る事は自分で行ってもらうようにもっている。				
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	◎	出来る、出来ないの把握に努め、声掛けにて出来る・出来そうな事を職員と一緒に言い、その結果楽しみや役割につながっていく支援を心掛けている。	○		○	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	◎	本人の生活歴の把握に努め、声掛けにて出来る・出来そうな事を職員と一緒に言い、その結果、楽しみや役割につながっていく支援を心掛けている。				洗濯物干しやたみ、野菜の皮むきなど、利用者にも声をかけて役割や出番づくりができるよう支援している。また、ビーズ作品を作ることが得意な利用者には、作成しやすい環境づくりもしている。また、歌やパズル、ビンゴゲームなどのレクリエーションを取り入れ、利用者にも喜びや張り合いが持てるよう支援している。さらに、高齢化に伴い、より介護を必要とする利用者が多くなっているものの、「家訓」や「目標」を定め、ぬくもりのある心の安らぎと笑顔で楽しく過ごせるよう支援している。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	◎	本人の想いや希望を大切にしている。その中で出来る事を計画しながら取り組んでいる。	○	○	○	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	×	地域の各種行事が中止となり交流を含めて難しいが、散歩中の挨拶は行っている。				

愛媛県グループホーム斎院の杜

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしやれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしやれについて把握している。	◎	自分自身で副を選ばれたり、身だしなみも個々で行っている。難しい場合は職員がケアを行っている。				職員が声をかけ、自分で髭剃りを行い、剃り残しなどの仕上げを手伝っている利用者もいる。着衣も、利用者自身で、できるところまでしてもらい、できない部分を介助している。また、靴などの履き物は、必要に応じて、家族に用意してもらっている。さらに、食べこぼしや口の周りの汚れが見られた場合には、さりげなくフォローをしている。加えて、重度の利用者にも、常に清潔な衣類に交換するとともに、整髪や顔を拭くなど、利用者にも確認をしながら支援をすることができている。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みに整えられるように支援している。	◎	一緒に買い物に行き、自分の好きな服や日用品等を買える。2か月に1度、散髪出来るよう支援している。				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	本人の前に服を持っていき、確認しながら決めていただき、迷う時は助言して支援している。				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	◎	行事や外出時に職員も一緒になって確認しながら、楽しく身だしなみ				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にしたりさりげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	◎	食べこぼしがあった場合はさりげなく、取り除くように心がけ、近くにタオル等を用意しておくようにしている。	◎	◎	◎	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	○	訪問に2か月に1度来てもらっているが、希望があった場合には好きな所へ行けるよう支援出来ている。				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	起床時の身だしなみを整えたり、本人と確認しながら支援するように努めている。			○	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	◎	理解出来ている。				事業所には、調理師の資格を持った調理の専属職員がおり、利用者の好みと旬の食材を取り入れながら、食材の買い出しや調理をしている。休みの日には、職員が順番に調理をしている。利用者は、もやしの根取りや玉葱の皮むきなどの調理の下ごしらえなど、できることを、できる時に手伝いをしていく。利用者の状態に応じて、刻み食やミキサー食などの食事形態にも対応するとともに、彩りにも工夫をしている。食器類は、使い慣れた物を自宅から持ってきてもらうほか、使いやすい物を使用している。食事は、介助や見守りを必要とする利用者が多くなり、一緒に食べる事ができないユニットもある。コロナ禍において、感染対策で同じテーブルは困めないものの、職員は少し離れた場所で見守りをしながら、同じ食事を摂ることができている。また、カウンターキッチンでの調理過程が重度の利用者にも見え、匂いや音を感じながら、食事を待ち遠しくなる雰囲気づくりもしている。さらに、昔懐かしい月見団子や、ホットプレートを使用してドラ焼きを作り、あんこを入れてもらうなど、利用者にも喜ばれている。さらに、感染状況を見計らいながら、外食に出かけたり、事業所内で幕の内弁当を食べるなど、楽しみのある食事も提供できている。加えて、調理の専属職員を交えて話し合うとともに、糖尿病がある利用者にも主治医から指示やアドバイスをもらうことができている。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	◎	入居者様のリクエストを参考にしながら献立づくりをしている。旬の食材を使ったり、野菜の皮むき等を利用者と一緒にしている。			○	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	○	食後自分で下膳される方にはお礼を伝える。また、皮むきや簡単な作業をしていただく笑顔で参加される。				
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	◎	入居前の情報にくわえ、日々の食事の様子やコミュニケーションを通じて把握できるように努めている。				
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔なつかしいもの等を取り入れている。	◎	調理師と相談しながら利用者の好物や季節に合わせ、旬の物を取り入れている。			◎	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせて調理方法としつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いどりや器の工夫等)	○	入居者様の状況に合わせ、食事形態を変えている。出来るだけ同じ物を食べられるように硬さにも気を付けている。きざみ食でも盛り付けは「美味しそう」を心掛けている。				
		g	茶碗や湯飲み、箸等使いやすいもの、使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	◎	馴染みある物を使って頂く為、家族に協力してもらっている。買い物時、本人の選んだ物を使っている。			◎	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	○	入居者様と一緒に食事をしている。常に目の届く距離でそれぞれのペースで食事できるようにサポートを行うよう努めている。				
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	◎	カウンターキッチンになっており、料理の様子が目、音や香りが届くようになっている。		◎	○	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べられる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	○	食事量や水分量チェックを行っている。申し送り、引き継ぎ、必要に応じて、水分をすすめたり、声掛けを行っている。				
		k	食事量が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	◎	本人の体調や気分に合わせて時間をずらしたり好きな物を提供したりと工夫している。				
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	○	調理師と相談しながら調理法や献立を決めている。魚・肉・野菜のバランスよく提供出来ている。			○	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	◎	調理用具は使用后、消毒・乾燥を徹底している。手洗い徹底・食材の保管に注意している。				

愛媛県グループホーム斎院の杜

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	◎	理解している。口腔体操も毎食前に行っている。	/	/	/	毎食事前に、利用者は口腔ケア体操を行うとともに、食後には、職員が声をかけ、歯磨きなどの口腔ケアを実施している。また、自分で歯磨きができる利用者を含めて、定期的に全ての利用者の口腔内の様子を確認することができている。また、異常が見られた場合には、訪問歯科診療につなげるとともに、指導やアドバイスをもらうこともできている。さらに、義歯は週1回洗浄剤に浸けている。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	○	食後の口腔ケアの際に義歯の状態や歯の状態を確認している。	/	/	○	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	○	訪問診療を受けている方は指導・助言を頂いているが、全員ではないので、疑問がある場合は質問させていただく。	/	/	/	
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	口腔内の清潔保持に努めている。五指の方は洗浄剤wp使用し管理出来ている。	/	/	/	
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	◎	入居者様に合わせ、必要な支援が出来ている。本人の合わせ、洗浄前や道具を用意している。	/	/	◎	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医を受診するなどの対応を行っている。	◎	痛みの訴えや表情・しぐさを見て主治医に相談し迅速な対応に努めている。	/	/	/	
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	◎	排泄に関する声掛けや対応は特に言葉や表情に配慮し、本人に合わせ、最良になるように努めている。安易に紙オムツ等を使用せず、本人の希望も合わせて考えている。	/	/	/	おむつメーカーの担当者に来てもらい、職員はおむつの種類や使用方法などを学ぶことができている。利用者の状態に合わせて、排泄パターンで職員が声かけやトイレ誘導をしながら、可能な範囲でトイレで排泄ができるよう努めている。また、必要に応じて、紙おむつやパッドなどの排泄用品の使用を職員間で話し合い、家族に確認の上で使用している。さらに、尿漏れによるおむつの適性を確認するため、職員がおむつ使用を試すこともある。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	◎	理解している。日々の生活の中で快便を目指している。	/	/	/	
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	◎	排泄チェック表を用いて職員全員が俳句出来るように努めている。	/	/	/	
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	○	入居者様ひとりひとりの状態が合わせ、適切に対応出来ている。	◎	/	○	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	◎	居室にポータブルトイレを置いて対応したり、トイレを分かりやすく案内をはったり、使用時の流れに注意している。	/	/	/	
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	チェック表を活用し、排泄パターンの把握に努め、声掛けや誘導を行っている。	/	/	/	
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一時的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	◎	パッド等の使用の際には話し合いをしながら検討していく。本人にも説明をして、了解を取るようにしており、家族にも報告・許可を頂いている。	/	/	/	
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けしている。	○	利用者一人ひとりに合わせ使い分けしている。	/	/	/	
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	◎	食物繊維の多い食べ物やヨーグルトを使用し工夫している。体操やマッサージを取り入れ、自然排便の取り組みを行っている。	/	/	/	
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)	◎	本人希望を聞きながら決めている。日・時間など希望に沿って実施し、直前に入る・入らないの訴えにも柔軟に対応している。	◎	/	◎	利用者は、2～3日おきに入浴することができる。尿漏れなどの汚れが見られた場合には、適宜シャワー浴などの対応をしている。事業所の都合で、午前と午後の入浴時間帯の設定はしているものの、湯船に浸かる長さや湯温など、利用者の希望に応じて、柔軟に対応をしている。時には、入浴剤等を入れ、利用者にもいつもと違う雰囲気を楽しんでもらうこともある。また、浴室内は、職員が丁寧に清掃を行い、清潔が保持されている。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分が入浴できるよう支援している。	◎	程度なコミュニケーションを交えながら、十分な入浴時間を取り、ゆっくりと楽しんで頂けるよう努めている。	/	/	/	
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	◎	本人の出来る所は声掛け・見守りしている。難しい時はサポートしている。	/	/	/	
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ちよく入浴できるよう工夫している。	◎	本人のペースに合わせて無理強いせずしている。入浴の順番や準備の声掛けやタイミングを注意している。	/	/	/	
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	◎	入浴前は必ずバイタル測定を行い、健康状態の把握に努め、入浴中、入浴後の様子にも注視している。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	◎	日中・夜間の様子を記録し、把握している。	/	/	/	事業所では、日中のレクリエーションやラジオ体操などの活動量を増やし、極力薬に頼りすぎない支援に取り組んでいる。また、昼と夜のメリハリをつけてもらい、夜間に利用者が安眠できるよう努めている。また、トイレの回数などで、夜間に眠れないこともあり、体調面を考えて、主治医と相談しながら、眠剤などを服薬している利用者もいる。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	日中の過ごし方、活動量も見直し、話し合い、日中活動的に夜間ゆっくりと休んで頂けるように努めている。	/	/	/	
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	各主治医に報告をしながら薬に頼りすぎず、取り組んでいるが、主治医が必要と判断した場合は処方して頂き、服用している。	/	/	/	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	◎	各個室で休まれたり、ソファでくつろがれる。自由に入出入りされ、また声掛けによって休まれる。	/	/	/	
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	◎	家族に事前に都合の良い時間を伺い居室で電話で話せるように支援している。	/	/	/	
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	○	家族に確認を取り、家族に手紙や電話をかけていただき支援している。	/	/	/	
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	○	携帯電話を持っている利用者もいるので、電話が出来るように配慮している。	/	/	/	
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	◎	家族から届いた手紙は本人に渡している。年賀状や季節の便りを作成しお届けしている。	/	/	/	
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらおうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	○	事前に家族との話し合い、協力をしてもらっている。お互いに年賀状のやりとりが出来るようにしている。	/	/	/	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大きさを理解している。	◎	理解している。	/	/	/	
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	◎	日用品を一緒に買いに行ったり、外食に行く機会を設けている。	/	/	/	
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	◎	外食に行く際には事前に車椅子可能か連絡を確認をしている。また、お店側も出入り口の近くにして下さる等協力して下さることもある。	/	/	/	
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	○	家族と相談して入所前からお金を持っている方もいる。外出の際は自分で使えるようにしている時もある。	/	/	/	
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	◎	本人が所持している場合に紛失リスクがある事は家族の理解のもと持っている。一人ひとり金銭出納帳を作成し、毎月コピーを手紙に添えて家族に確認してもらっている。	/	/	/	
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしておき、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	○	毎月、金銭出納帳のコピーと日常の様子の手紙を添えて家族に確認して頂いている。	/	/	/	
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々々のニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	本人や家族の希望や要望をよく聞き取り、応えられるように、その都度確認しながら実施している。	○	/	◎	事業所では、利用者や家族の要望に応じて、可能な範囲で柔軟に対応をしている。訪問調査月の前月に行われた衆議院選挙に出かけたり、病院への受診時に職員が同行するなどの支援もしている。



項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと		
<b>(3)生活環境づくり</b>											
25	気軽に入れる 玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	◎	季節に合わせて花や野菜を育てて明るい環境作りをしている。玄関には入居者の作品も展示している。	◎	◎	◎	住宅街にある事業所は周辺の家に馴染み、玄関が裏手にあり、初めての来訪者には少し分かりづらく感じられる。また、玄関の周辺にはプランターが置かれ、季節の花や野菜を育てていることもあり、家庭的な雰囲気となっている。さらに、玄関を入ると、利用者が作成したビーズのストラップ作品が飾られている。		
26	居心地の良い 共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気を有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものしか置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。)	◎	季節に合わせて展示物を作ったり、写真を飾って利用者で見たり、利用者の作品を展示したり、明るい空間を作っている。展示物は子供っぽくならないように注意している。	○	◎	○	リビングや廊下の壁面には、利用者と一緒に作った紅葉や祭りなどの季節の飾り付け、利用者の写真などが飾られている。また、ぬり絵の大作や、広告デザインの同じような色を切り抜いて集め、作成した貼り絵なども飾られ、利用者が写真や作品を見ながら、話しが盛り上がることもある。さらに、事業所内は、毎日の清掃と消毒を行うとともに、空気洗浄機を活用して換気をするなど、嫌な臭いなどを感じられず、快適な空間となっている。加えて、事業所内の照明はオレンジ色で、利用者等のまぶしさを防ぐとともに、リビングの窓から季節の移り変わりを眺めることもできる。		
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	◎	入居者様と一緒に整理整頓や毎日掃除をして環境整備を心掛けている。					◎	
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に探り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	リビングソファで利用者同士でくつろいだり、外が見えやすいようにしている。景色をみたり、子供たちに手を振ったりして過ごされている。						○
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	◎	入居者様同士で話をされているときはお茶をお持ちしてゆっくりと過ごしてもらおう。また、個別の時間も持てるように支援し、トラブルにも対応出来るように配慮している。						
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないう工夫している。	◎	見えない構造になっている。						
27	居心地良く過ごせる 居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	馴染みのある物を持ってきて頂き、施設でも居心地よく過ごせるように工夫している。	◎		◎	居室には、馴染みの物を持ち込むことができ、家族や思い出の写真のほか、賞状や折り紙などを飾っている利用者もいる。また、視覚障がいのある利用者もおり、居室内は定まった位置に道具や物品を置き、やすらぎと落ち着ける空間づくりにも努めている。		
28	一人ひとりの力が 活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	◎	廊下やトイレ・浴室に手すりを設置し安全に過ごせる工夫をしている。見える所に時計や案内表示を設置している。				○		
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	○	トイレに設置している手すりに赤テープを巻き、利用者に見やすいように工夫している。					利用者に手すりの位置が分かりやすいように、赤いテープを貼っている。トイレは感知式の自動照明となっているため、間違わないように入り口に表示をしている。また、居室には表札を付けていないものの、自室が分かるように折り紙などの目印を付けている。さらに、新聞や雑誌を置き、利用者が自由に取れるようにしている。	
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	○	雑誌や新聞をテーブルに置く事によって見やすいように配慮している。裁縫道具は希望がある時にすぐ出せれる所に保管している。						
29	鍵をかけない ケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態でも暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	◎	全員が施設する事での弊害を理解している。帰宅願望の時には外出にて気分転換を図るなど工夫している。	×	×	○	職員は、社内研修などで学び、鍵をかけることの弊害をきちんと理解している。2年前までは、玄関に鍵をかけていたこともあり、開放を家族に報告をしているものの、日中にも鍵がかかっていると思い込んでいた家族もいると思われ、利用者家族等アンケート結果からも、十分に伝わっていないことが窺うことができる。今後は、家族や地域住民に、周知できる工夫を期待したい。また、日中は玄関を開放し、夜間は防犯のため、施設をしている。さらに、帰宅願望のある利用者には、職員が付き添い、外で気分転換をしてもらうなどの対応をしている。		
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施設を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	○	家族の中でも安全面を考慮して施設を希望されるかたもいるので、施設しない大切さを引き続き説明理解を深めている。						
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	○	外出する機会は減っているが、気分転換のため施設周辺や近くに散歩に行く等の対応をしている。						

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4)健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	◎	現病によって薬の増減や対応が変わる事もあるので、申し送りノートや往診記録で確認出来るようにしている。				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	◎	その時にした対応を含め記録や申し送りノート・ミーティング等で変化を伝え対応・対策に向けて取り組んでいる。				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等いつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	◎	訪問看護師や主治医に気になる事は相談し、対応・対策をお伺いしている。				
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	◎	入居の際に利用している病院を?ういぞくして利用したいか必ず確認している。	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	◎	本人・家族・主治医に事業所で話し、希望を大切にしつつ、円滑に適切な医療を受けられるように支援している。				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	○	家族と共に同席し、希望をお伺いして施設で出来る対応について説明し、同意をして頂けるように話し合いをも受けている。				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	◎	緊急時用の情報提供表と施設情報を全員分作成して簡単に入居者様の情報が分かるように取り組んでいる。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	◎	医療機関の相談員と連絡を取り合い、現状や退院までの期間など情報交換に努めている。また、得た情報は家族に報告している。				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	◎	些細な変化でも主治医に報告し把握して頂いている。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	◎	訪問看護ステーションと契約し、定期的に状態観察をして頂いている。入居者の状態を報告し、各主治医との連携も図れている。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	◎	訪問看護ステーションと契約して、緊急時など対応して頂ける。また、施設内での緊急時、連絡体制を整えている。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	◎	日々のバイタルチェックや排便コントロール等の確認し、情報共有が図れている。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	◎	薬の作用・副作用を把握できるように努めている。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	◎	本人の前で名前・日付を声に出して確認し、服薬介助をしている。飲み込みも確認している。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	○	本人の状態変化があれば主治医に確認・相談し、心身の安全につながるように努めている。				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	◎	状態変化が見られる場合、主治医に連絡し迅速な対応をしている。				

愛媛県グループホーム斎院の杜

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	◎	家族宛に看取りに対するアンケートを実施して、家族の想いや考え方を知る事が出来た。	/	/	/	事業所には、「看取りの指針」があり、入居時に利用者や家族に説明している。利用者が重度化した場合には、利用者や家族、医師などの関係者を交えて話し合い、方針を共有してチーム体制で支援をしている。また、事業所では、昨年3名の看取りを経験するとともに、訪問調査月にもターミナルケアに対応している利用者がいた。さらに、終末期のあり方などの勉強会を重ね、看取りの経験が職員のスキルアップにもつながっている。加えて、管理者等は、一人ひとりの看取りには違いがあり、感慨深さも感じている。	
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	○	各主治医の看取りに関する話や対応策など話し合い、施設独自の連絡体制を作り、強化を図っている。	○	○			
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々の職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	○	家族の想いを元に職員に対応がどこまで出来るかを確認し、話し合いをしながら見極めている。	/	/	/		
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	当施設で出来る・できない事がうまく伝わっていない家族もいるので、引き続き説明していく。	/	/	/		
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	◎	本人の想いや家族の想いなど主治医と共に話し合いを深めて、本人の想いに応えられるよう支援している。	/	/	/		
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	面会や電話・手紙を通じて近状報告や家族自身の心身を気にするように心掛けている。	/	/	/		
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癩、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	◎	各種感染症に対してマニュアルを作成して掲示している。また、ミーティングを通して対応策などで話し合いが行っている。	/	/	/		
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	○	感染症のセットを準備し、今年度もコロナ対策により面会時に検温・アルコール小汚毒・マスク着用等の対策が行っている。	/	/	/		
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	◎	流行に備えて、最新の情報収集をし、確認して対応出来ている。	/	/	/		
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	○	地域の発生や同系列の情報収集し、予防・対策に努めている。	/	/	/		
		e	職員は手洗いやうがいなども徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	◎	手洗いうがい・アルコール消毒を徹底し、予防に努めている。	/	/	/		

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>II. 家族との支え合い</b>									
37	本人とともに支え合う家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	◎	家族が面会に来られた際には、普段の様子を伝え、家族とのコミュニケーションを大切にしている。	/	/	/	コロナ禍において、家族との面会制限を設けていたものの、県内の感染対策が緩和されてから、訪問調査月の前月から、10分程度の窓越しの面会を再開するとともに、訪問調査月の11月からは、15分程度の居室での面会も可能にして、利用者や家族から喜ばれている。また、ホーム便り「さやのもり」を活用して、面会の変更のほか、職員の異動や入退職、事業所の出来事なども、家族に伝えることができています。さらに、事業所には家族会があり、コロナ禍以前は年2回運営推進会議などに合わせて開催するとともに、クリスマス会などの行事に家族の参加を呼びかけて、協力を得ることもできていた。加えて、毎月ホーム便りに合わせて、お小遣い帳のコピーを送付するとともに、電話やメールを活用して、家族に利用者の様子を伝えることができています。家族には、接遇などの忌憚のない意見を伝えてもらうとともに、看取りのアンケートにも協力してもらっている。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	◎	基本的にはいつでも来て頂けるように時間の制限など設けていないが、今年度は新型コロナウイルスの影響により、その都度、対応させて頂いている。	/	/	/	
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	○	行事や外出希望がある場合には、家族と共に過ごして頂けるように工夫している。	○	/	○	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	◎	季節ごとに事業所便りを作成して家族に配布している。家族から楽しみにしているとの声もあり、便りと一緒に手紙で近況報告もしている。	○	/	◎	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的な内容を把握して報告を行っている。	○	面会時に要望等をお伺いし、要望に合わせアンケートや説明等をさせて頂いている。	/	/	/	
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	◎	認知症の理解について深めている。家族会等は行えていないが、研修資料や面会次に要望をお伺いするなど関係性の構築に向けて努めている。	/	/	/	
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	○	毎月配布している手紙に運営上変更になったことについては報告している。	○	/	○	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	○	毎年、夏祭りやクリスマス会に合わせて家族会を年に2回開催していたが、昨年同様、開催出来ていない。	/	/	/	
		i	利用者一人ひとり起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	◎	認知症の進行やそれに伴い起こる症状等、家族には面会時にお伝えしている。また、手紙にて近況報告をしているので、その中に盛り込んでいる。	/	/	/	
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	◎	職員は面会時に近況報告を行えている。また、衣替えや洋服・日用品の依頼などを通じて家族との関係性も図れている。	/	/	◎	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	◎	契約の際は二部用意し、時間をかけて説明・同意をさせて頂いている。また一部は家族管理としている。	/	/	/	
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	◎	本人の状況を説明し、同意を得てから退去の話をさせて頂いている。またサービスが利用出来るように相談援助を行っている。	/	/	/	
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	◎	料金改定時は文章と口頭にて説明し同意を得てから実施している。また、契約書の中に料金一覧を記載し、説明し同意を得ている。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
<b>Ⅲ. 地域との支え合い</b>										
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域：事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	運営推進会議の際に役割や目的について地域の方々の理解を深めている。また新型コロナウイルスの影響により書面での報告となっている。	/	◎	/	現在のコロナ禍において、ほとんどの地域行事は中止されている。法人・事業所として町内会に入会し、回覧板が回ってきており、必要に応じて、事業所の活動の周知にも活用することができる。また、日常的に、職員は地域住民と挨拶を交わすとともに、近隣住民が野菜などのお裾分けを持って来ることもある。さらに、3年前から、地域の農家等に協力してもらい、年末に市内のひとり親家庭に、お米を届ける活動も行っている。	
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	×	日頃からの挨拶は町内の行事に参加し、関係性を築いているが、今年度も各種イベントが中止になっている。	/	△	○		
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	○	行事に参加して頂ける地域の方が増えつつある。	/	/	/		/
		d	地域の人気が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	○	野菜や食材をお裾分けをしてくださる方がいる。	/	/	/		/
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	○	近くにゴミ置き場があり、挨拶をする機会がある。	/	/	/		/
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	○	新型コロナウイルスによって、運営推進会議が書面になっているが、2か月に1回は町内会長さんにお手紙をお渡しに言っている。その際に、地域の予定を教えて下さる。	/	/	/		/
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	○	近所にあるスーパーまで車いすやシルバーカーを押して買い物へ出かけたり、近くの公園に散歩に行き、気分転換を図っている。	/	/	/		/
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	×	近隣のスーパーや喫茶店をよく利用している。関係性を深める取り組みまでは至っていない。	/	/	/		/
40	運営推進会議を活かした取り組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	○	利用者家族・地域の方には案内を配布して参加して頂いている。今年度は書面での開催のみである。	○	/	○	運営推進会議は、家族や町内会長、地域の防災士、地域包括支援センター、市担当者などの参加を得て開催している。会議室に限りがあるため、参加者数を制限せざるを得ない状態となっている。現在はコロナ禍のため、文書開催となっているものの、事前に資料を町内会長や地域の防災士の自宅を訪問して渡し、意見を聞くことができている。また、会議では、事業所での活動状況や評価、要望や助言への回答などを実施している。	
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。	◎	近状報告をする際に、実際の写真を織り交ぜながらその時の入居者様の表情など見て頂いている。また、外部評価後の運営推進会議では、助言を頂いた事を一覧にして説明している。	/	/	/		
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	◎	家族や地域の方には要望や質問の場を設け、意見交換を大切にしている。	/	◎	◎		
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	◎	家族・地域の方に意見をお伺いしながら日程を決めている。参加者は同じメンバーが多いが、参加して頂ける家族は増えた。	/	/	○		/
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	◎	松山市介護保険課に提出している。また、報告書を家族や町内会長さん達に配布して理解を深めている。	/	/	/		/

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>IV.より良い支援を行うための運営体制</b>									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	◎	理念に基づき家庭的な施設を目指している。見える所に理念を掲示し統一したケアを目指している。				
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	◎	玄関や共有スペースに掲示している。また、入居案内や契約時にお渡ししているパンフレットにも掲示している。	○	○		
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者:基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	◎	研修の案内を掲示して参加を促している。また、職員個別に研修参加を促し、知識向上に努めている。				定期的に、代表者は事業所に来訪し、利用者や職員の話を聞くとともに、職員の自主性を尊重しながら、職員が自ら考えて失敗しても、次につなげることを伝えている。また、今年4月から現場経験の長い管理者に交代し、職員の意見を聞くとともに、利用者の個別ケアにも取り組んでいる。また、定期的に社内研修や勉強会を実施して、職員のスキルアップに努めている。さらに、代表者は管理者とともに、何でも話し合える風通しの良い職場環境づくりにも取り組んでいる。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	◎	日頃から話し合い合える関係づくりを目指し、職員のスキルアップのため、それぞれの能力を見通している。				
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	◎	資格取得や研修参加をしスキルアップをする事で、役割・役職を設け意欲向上に繋げている。				
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	◎	社外研修や連絡協議会を通じて他事業所と交流したり、同系列で行事に参加し交流を深めている。				
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	毎年ストレスチェックを行い、状況把握に努めている。	○	◎	◎	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	◎	マニュアルの見直しや社外研修に参加することで知識を深めている。社外研修で学んだ知識を社内研修で還元し、全員で知識向上に努めている。				虐待防止等をテーマにしたオンライン研修に職員が参加するとともに、事業所内で伝達研修を行い、職員間で情報を共有している。また、事業所では、スピーチロックや薬物ロックが起こらないよう取り組んでおり、職員は意識した対応をしている。さらに、声かけなどの不適切な行為が見られた場合には、職員同士で注意喚起をしている。加えて、職員一人ひとりの考え方は様々であるものの、基本的な考えや取組みは共通であり、利用者を観察しながら、個別に優しさのある支援に努めている。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	利用者のケア面や業務改善について日頃から話し合える関係づくりが出来ている。				
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されることがないように注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	◎	マニュアルを見やすい所で置き、理解を深めている。また、利用者に対する声掛けなど気を付けるよう徹底している。			◎	
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	定期的に勤務体制や夜勤回数など相談する機会を設け、職員の体面や精神面の配慮を行っている。				
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	◎	マニュアルの見直しや社内研修で知識を深めている。年間計画を立てて社内研修を行っている。				
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	マニュアルを見やすい所へ置き理解を深めている。ミーティングや社内研修で話し合っている。				
		c	家族等から拘束や施設への要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	○	家族と話し合いながら身体拘束は0である。ただ、センサー使用に関しては、目的は行事制限ではなく、安全に介助するためと明記し導入している。				

愛媛県グループホーム斎院の杜

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを理解している。	◎	研修に参加し理解を深めているが、理解しきれていない職員もいるので資料配布をして周知を図っている。	/	/	/	
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	○	家族より要望はないが、パンフレットをお渡ししたり、運営推進会議で説明するなど周知している。今は、書面で報告する形を取っている。	/	/	/	
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	○	地域包括支援センターとの連携体制が図れている。	/	/	/	
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	◎	統一した対応が取れるようにマニュアルを作成し周知している。	/	/	/	
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	○	訓練はしているが、全職員が身について対応出来るとは言えないため、今後も訓練を行い、実践力を身に付けていく。	/	/	/	
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	◎	ヒヤリハットを作成し、未然に防ぐよう努めている。また、ミーティングを通して話し合いを行っている。	/	/	/	
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	◎	全職員入居者様一人ひとりの状況把握に努めている。リスク面についても話し合いを繰り返している。	/	/	/	
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	◎	マニュアルを作成し、対応している。	/	/	/	
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	苦情相談窓口を設置して担当者が対応できるようにしている。専用紙に記録を残すようにしている。	/	/	/	
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	◎	苦情があった場合には、その都度対応し、繰り返し起こらないよう対策を考え、取り組んでいる。	/	/	/	
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	◎	居室や入浴時・外出時に話を開ける関係づくりを目指し、取り組んでいる。	/	/	◎	日常的に、職員は利用者の会話に耳を傾け、意見や要望を聞き、対応をしている。居室や入浴時など、利用者とは1対1になる機会を活用して、話を聞くことが多い。家族からは、面会時や電話連絡時、メールを活用して、忌憚のない意見や要望を言ってもらえるよう伝えている。また、管理者は申し送り時や職員の業務終了時に声をかけ、ちょっとしたことでもスタッフルームで相談や話しを行うことができている。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	◎	運営推進会議や家族会・面会時に意見や要望を開けるように配慮している。	○	/	○	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	◎	契約書の中に公的な機関の窓口も掲載している。	/	/	/	
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	○	ミーティングや個別で意見を聞く機会を設けている。	/	/	/	
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	ミーティングや個別で意見を聞く機会を設けている。利用者主体で考え、本人の想いが繁栄出来るように努めている。	/	/	○	

愛媛県グループホーム斎院の杜

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	◎	毎年、各ユニットで自己評価を行っている。ミーティング時に時間を作って、話し合いに取り組んでいる。	/	/	/	外部評価の自己評価は職員全員で取り組み、各ユニットで職員の意見を集約しながら作成をしている。また、自己評価で出された課題も、ミーティング等を活用して話し合いをしている。また、サービスの評価結果や目標達成計画は運営推進会議で報告をしている。さらに、会議の参加メンバーや家族から意見をもらうことはできているものの、取組み状況のモニターまでには至っていないため、コロナ禍の収束後には、家族や会議の参加メンバーにモニターの協力を呼びかけて、意見交換ができることを期待したい。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	○	評価を通じて事業所の強みや課題を見直し確認や改善に努めている。	/	/	/	
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	◎	結果をもとにミーティングで話し合い、改善に向けて取り組んでいる。運営推進会議を通じて家族・地域に報告している。	/	/	/	
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	○	評価後の運営推進会議や家族会の際に報告することや資料を配布して知らせるよう努めている。	○	△	○	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	○	運営推進会議の時に達成出来た所は報告し、出来なかった所は助言を頂いている。	/	/	/	
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	○	各種マニュアルを作成し、周知している。	/	/	/	事業所では、年2回避難訓練を実施し、消防署へ結果報告書を送付している。防災の本を職員全員に配布するとともに、チェックリストも作成している。また、事業所のある地域は、松山市のハザードマップの対象地域となっており、避難計画も作成している。さらに、災害時の地域との電話連絡体制などを構築するとともに、運営推進会議の参加メンバーでもある防災士と話し合うことができている。コロナ禍以前は、地区の防災訓練にも参加協力することができていた。加えて、事業所の防災計画を家族に説明することもできている。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	消防署職員や地域の方が参加した訓練は難しいが、自主訓練にて手順の確認を行っている。	/	/	/	
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	◎	チェックリストを作成したり、施設外に専用倉庫を設けて分かりやすくまとめている。	/	/	/	
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	○	直接の話し合いは難しいが、電話や手紙を通じて協力体制の確保は出来ている。	○	○	◎	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	○	地区の連絡会に参加し他施設との関わりを目指している。	/	/	/	
		a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	○	今年度は地域に発信する活動は行っていないが、来て頂いている地域の方々には書面で運営推進会議の報告書を配布している。	/	/	/	
51	地域のケア拠点としての機能	b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	○	看板に大きく介護相談の案内を掲示しているので、支援としてはないが、発信はしている。	/	○	○	事業所で相談支援ができることを知らせるため、2年前に介護相談の看板を設置したものの、市内には地域包括支援センターや居宅介護支援事業所等もあり、今のところ相談事例はない。また、地域包括支援センターの地区連絡会に参画するとともに、市担当課等と連携を図ることができている。さらに、法人・事業所として、SDGsの活動にも取り組み、3年前から地域の農家等に協力してもらい、年末に市内のひとり親家庭にお米を届ける活動も行うとともに、東温市社会福祉協議会が実施するフードドライブにも協力するなど、地域にも貢献することができている。
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	×	今年度もボランティアの方への参加は難しく、来ていない。	/	/	/	
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	×	昨年と同様に初任者研修の受け入れを目指しているが実施出来ていない。	/	/	/	
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	○	地区の連絡会に参加し、他施設との関わりを目指している。	/	/	○	



(別表第1)

## サービス評価結果表

### サービス評価項目

(評価項目の構成)

#### I.その人らしい暮らしを支える

(1)ケアマネジメント

(2)日々の支援

(3)生活環境づくり

(4)健康を維持するための支援

#### II.家族との支え合い

#### III.地域との支え合い

#### IV.より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!  
 ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
 シャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

#### 【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和 3 年 11 月 18 日

#### 【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 10名	(依頼数) 18日
地域アンケート回答数	2名	

#### ※事業所記入

事業所番号	3870105750
事業所名 (ユニット名)	グループホーム 齋院の杜 2F
記入者(管理者) 氏名	田坂 美紀
自己評価作成日	令和 3 年 10 月 29 日

<p>【事業所理念】</p> <p>1、入居者に対しては、常に一人ひとりの人格を尊重し、人生の先輩として敬い家庭的な環境の下、有する能力に応じた日常生活が送れるように努めます。</p> <p>2、職員は、自分の仕事に誇りを持ち、「家訓」の実践に工夫と反省を心掛けて、「自分や家族が入居したいと思う」職場作りを努めます。</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】</p> <p>1、本人の希望や意向、思いについての把握                  ○介護記録に言動をこまめに記録でき、ケアプランと連動できるように努めた。記録の見直し等を行い、職員間で報連相を徹底し、情報共有できた。                  2、災害の備え                  ○各種マニュアルを参考に職員間での共有し、研修も行う。新型コロナウイルスの兼ね合いにより、消防士立ち合いの避難訓練の実施はできていない。                  3、重度化や終末期への支援                  ○新型コロナにより、研修がネット使用のものとなっている。研修を意欲的にできていない。現在、終末期の方はおられないが、今後もご家族や各ユニットで話し合い介護が行えるように努めていく。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】</p> <p>市内中心部から少し離れた郊外の住宅地に、事業所は立地している。職員から信頼され、温厚な代表者は、定期的に事業所を来訪して、利用者や職員の話しに耳を傾けるとともに、「職員の自主性を尊重しながら、事業所をもっと良くしていきたい」と考えている。今年4月に交代した管理者とともに、何でも話し合える風通しの良い職場環境づくりにも取り組んでいる。職員同士の仲も良く、助け合うとともに、工夫やアイデアを盛り込みながら、サービスの質の向上に取り組んでいる。また、前回の外部評価の訪問調査から、介護記録等の様式を見直しに取り組み、職員に周知徹底することができている。さらに、事業所には専属の調理員がおり、創意工夫された献立は、利用者や職員から好評である。県内の感染対策が緩和され、早期に居室で家族との面会を再開し、利用者や家族から喜ばれている。加えて、法人・事業所として、SDGsの活動にも取り組み、3年前から地域の農家等に協力してもらい、年末に市内のひとり親家庭にお米を届ける活動も行うとともに、東温市社会福祉協議会が実施するフードドライブにも協力するなど、地域にも貢献することができている。</p>
---	--	---

## 評価結果表

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I.その人らしい暮らしを支える									
(1)ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	◎	希望や日々の会話の中での意向は記録や会議などで共有、把握し、希望にそうよう可能な限り努めている。	◎	/	◎	入居時に、事業所ではアセスメントシートを活用して、利用者や家族から、思いや暮らし方の希望などの聞き取りをしている。また、日々の生活の中で、職員は利用者の思いや希望、意向など、一つでも多くの情報が把握できるよう努めている。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	まずは普段の生活をし、そのうえで検討している。	/	/	/	
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	○	面会や電話などで、本人の思いがあれば聞き、職員間で共有している。	/	/	/	
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	◎	介護記録などを活用し、共有している。	/	/	/	
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	◎	記録し共有したうえで、何ができないことがないか話し合い、活かしている。	/	/	/	
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	◎	入所時、家族や本人から話を伺い、情報収集に努めている。	/	/	◎	入居時に、アセスメントシートを活用して、利用者や家族から生活歴などの聞き取りをしている。管理者等は、「どういう居室で生活を送りたいか」などの利用者の気持ちを大切に支援にも取り組んでおり、使用していた布団やまくら、ぬいぐるみなどを自宅から持ってきてもらっている。ここ1年は、病院や施設から、事業所へ利用者が入居につながる事が多く、家族や施設の担当者から情報を聞くとともに、病院からサマリーの提供を受けることもある。また、把握した情報はアセスメントシートや介護記録に記載し、職員間で共有している。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	◎	日々の言動を観察し、出来る事を多く見つけ出し記録に残し、職員間で共有を図れている。	/	/	/	
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	○	不安を感じている場面では、状況を整理し、同じ事が起こらないように職員間で相談し共有している。	/	/	/	
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかわり等)	◎	記録し共有。ミーティングなどで話し合ったり、主治医や家族の力も借りながら把握に努めている。	/	/	/	
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	○	個々の生活リズムに合わせて支援している。変化があれば記録に残している。	/	/	/	
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	集めた情報を元に本人にとってよりよい支援も考え、ケアにつなげている。	/	/	○	担当職員を中心に、「どこに行きたいか、住んでいるところの生活の継続の希望」などの利用者の思いを聞きながら、希望がかなえられるように、常に利用者本人の視点に立ちながら、検討をしている。また、穏やかな生活が送れるように、利用者一人ひとりの個別ケアにも取り組んでいる。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	○	本人や家族の話を元に検討している。	/	/	/	
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	◎	検討・ケア・評価を行い、次につなげる課題を考えている。	/	/	/	

愛媛県グループホーム斎院の杜

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	可能な限り今までの暮らしが施設でも継続できるように努めている。				利用者の意見を聞くとともに、関係者の意見を踏まえて、各ユニットで、月1回のミーティングや日々の申し送りを活用して、職員間で意見やアイデアを出し合いながら話し合い、計画作成担当者が介護計画を作成している。また、計画には家族の意見を反映するとともに、可能な範囲で、利用者の今までの暮らしの継続にも取り組んでいる。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	ミーティングや申し送りで話し合い、家族や地域行政から助言を頂き実践している。			○	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	◎	今までの生活と施設での生活を比べ、可能な限り、今までの生活になるよう努めている。				
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	○	新型コロナウイルスの影響で、行事の参加依頼などが困難だが、連絡をとり、入居者様が地域で暮らせるように努めている。				
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	◎	職員がそれぞれ担当を持ち、アセスメント・モニタリングをして知識を深め、情報共有も図れている。				◎ 各ユニットで、月1回のミーティングを活用して、介護計画の内容を共有するとともに、サービスの実施記録時には、介護記録の様式に記載してあるサービス内容等を確認しながら記載することができる。前回の外部評価から、職員間で検討して、介護記録等の様式の見直し、周知徹底をしている。また、管理者は記録が職員の負担にならないよう、普段見られないような行動やしぐさ、何をしたかなど、変化を見逃がさずに記録に残すよう指導している。さらに、職員のアイデアや気づきがあれば、管理者に相談するほか、申し送り時などを活用して職員間で話し合うとともに、必要に応じて、利用者に数日サービスを試み、介護計画の内容を追加・変更する場合もある。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	◎	毎月末にモニタリングを行い評価している。担当者を中心に話し合い、日々の支援に繋げている。				
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	○	本人の言葉や表情など、できる限り細かく介護記録に残している。情報共有も図れている。				
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	◎	ミーティングや申し送りノートを活用し、工夫・アイデアの話し合い、共有ができてい。。				
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	◎	6か月毎に見直しを行っている。状況の変化やモニタリングの結果からその都度変更する場合もある。変更時には、家族にも報告している。				◎ 入居時には、3か月で介護計画を見直すとともに、入退院時には、1～2か月程度で、計画の見直しをしている。それ以外は、6か月に1回を基本として、計画の見直しをしている。また、担当職員が毎月末に、利用者の状況を確認しながらモニタリングで評価を行うとともに、ミーティング時に報告して、職員間で共有している。さらに、モニタリングの結果や、利用者の状態の変化に応じて、新たな介護計画を作成するとともに、家族に確認することもできている。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	◎	各担当者が、月に1階モニタリングを行っている。変更や継続は、その都度相談しながら決めている。				
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	◎	状況変化が見られた時には、見直し・変更を行っている。変更した時には情報共有も図れている。				
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	◎	毎月ミーティングを行い、話し合いが出来ている。				◎ 事前に、職員が参加しやすい日程調整を行い、毎月実施する各ユニットのミーティングを活用して、職員間で話し合いをしている。職員が会議の司会を順番に行い、話しやすい雰囲気や場づくりが出来ている。また、緊急案件のある場合には、直ちに職員を招集し、臨時ミーティングを実施することができている。さらに、参加できなかった職員には、議事録や申し送りノートを確認してもらうとともに、内容が変わった場合には申し送り等を活用して、口頭で伝達をしている。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	◎	職員全員が発言出来るように司会者を中心に話しやすい雰囲気や場づくりが出来ている。				
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	◎	司会と書記を中心に参加者が多くなるように日程調整を行っている。				
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしきみをつくっている。	◎	議事録を確認し、サインすることで周知している。必要時、申し送りノートや口頭で情報共有している。				
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしきみをつくっている。	◎	申し送りノートや業務日誌を活用し、把握・共有を行っている。				◎ 朝夕の申し送りを実施するとともに、申し送りノートや業務日誌を活用して、職員間で情報を共有している。申し送りノートには、些細なことを記載するようにしている。また、職員は出勤時等にノートや日誌を確認するとともに、確認後にはサイン欄にチェック等を行い、確実な情報伝達につなげている。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	◎	申し送りノートにもサイン欄があり、目を通してから業務に入るように努めている。			◎	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にしたい支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	◎	本人の気持ちを伺いながら思いに添えられるように努めている。可能な限り個別ケアの機会も設けている。	/	/	/	職員は、「どっちにしますか」などの声をかけ、外出時の衣服や入浴時の着替え、朝食のご飯かパン、飲み物など、その時々に応じて、可能な範囲で利用者に自己決定してもらえるよう支援している。また、日常会話やレクリエーションの中で、職員は回想をしながら利用者から好みなどを聞き出して把握するとともに、好みの話題や思い出話をしながら、喜びや楽しみにつなげている。さらに、居室や入浴時など、職員と利用者が1対1になれる場面に話しや相談を聞き、より良い生活が送れるよう支援している。中には、ピースの作品づくりが趣味の利用者もあり、文化祭に出展したり、事業所内に飾ったりすることを支援している。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	◎	自分で服を決めたり、飲み物や入浴など、自己決定ができる場をつくっている。	/	/	◎	
		c	利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかるかに合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	○	新型コロナで現状難しい時もあるが、可能な限り、個別ケアを設け、買い物や外食が出来るように支援している。	/	/	/	
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にしたい支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	◎	入居者様一人ひとりのペースに合わせて支援できている。	/	/	/	
		e	利用者の活き活きた言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	◎	レクや掲示などを活用し、日々の関わりから引き出す雰囲気づくりに努めている。	/	/	◎	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	○	表情を観察・変化に注意し、ここに阿多生活が送れるように支援している。	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切にしたい言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	◎	人権・尊厳を理解し、プライバシーに配慮した支援に努めている。	/	◎	○	事業所では理念の中に、「常に一人ひとりの人格を尊重し、人生の先輩として敬い」などと掲げて、職員は意識して利用者を敬う声かけや対応に努めている。また、定期的に社内研修や勉強会を実施するとともに、ミーティング時に話し合うなど、職員は人権や尊厳などを学んで理解している。さらに、利用者の名前は名字で呼ぶように努め、不適切な呼び方が見られた場合には、管理者等から該当職員に注意喚起をしている。耳の遠い利用者には、居室で話しかけたり、ジェスチャーや文字や図で示したりしながら、分かりやすく伝えている。加えて、居室からの退室時には、「失礼しました」などと、利用者の目線で話しかけるとともに、居室の不在には、事前に利用者「〇〇で入るね」と声をかけ、一緒に入室するなどの配慮もしている。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉がけや対応を行っている。	◎	入居者様一人ひとりに合わせた声掛けや支援が出来ている。	/	/	◎	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら助助を行っている。	◎	羞恥心・プライバシーに配慮した支援を行っている。	/	/	/	
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	◎	入室時はノックをして声掛けしている。本人がいない時に入る場合も声をかけてから入室している。	/	/	◎	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	◎	就業規則にも記載しており、全職員が個人情報の取り扱いについて理解出来ている。	/	/	/	
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けをもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	◎	人生の先輩として学ばせてもらうことも多い。感謝をし合える関係性を心掛けている。	/	/	/	日常的に、職員は利用者手伝わってもらった場合には、感謝を伝えるとともに、利用者同士や職員と一緒に助け合いながら、生活が送れるよう支援している。職員は、利用者同士の相性や一人ひとりの性格を把握して、座席などの配慮をしている。時には、利用者同士が言い合いになることもあり、職員が間に入って仲介するとともに、利用者目配りながら、トラブルが起こらないよう努めている。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らすしていくことの大切さを理解している。	◎	入居者様同士、支え合うことの大切さを理解している。	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わえる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)。	◎	入居者同士の関係性を大切にしている。一人で過ごしたい時は尊厳している。何かあった時には間に入り、対応している。レクリエーションの時にはうまく関わられるように支援に努めている。	/	/	○	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	◎	見守りを行い、必要な時には仲介に入るときもある。	/	/	/	

愛媛県グループホーム斎院の杜

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	◎	家族や知人との関係性も大切にしている。				
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	本人との会話から家族や知人から情報が聞けるように心掛けている。				
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	○	面会が可能な時には来て頂いていた。現在は、手紙や電話などで対応させて頂いている。				
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	△	新型コロナウイルスの状況に応じて、面会可能な時には、感染対策をしながら玄関で対応させて頂いている。				
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない) (※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	○	新型コロナウイルスの影響により、外出期間は減っているが、駐車場付近を散歩したり、プランターの花を見たりして、できる範囲で取り組んでいる。	○	○	○	日常的に、玄関前に置いているプランターの野菜や花の水やりをしたり、事業所周辺の散歩をしたりするなど、コロナ禍においても可能な範囲で、利用者の外出支援に努めている。また、県内の感染警戒の緩和に伴い、利用者と一緒に買い物や外食に出かけることができている。さらに、車いすを使用している利用者の外出が難しい場合にも、1階と2階ユニット間の交流や、ベランダから景色を眺めながら外気浴をするなど、少しでも気分転換が図れるよう取り組んでいる。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	△	家族の力を借りて支援している。				
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	○	他の階へ行ったり、ベランダから外を見たりして、気分転換を図っている。				
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	◎	個別ケアで買い物や食事に行く機会を設けている。				
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	◎	外部研修に参加したり、社内研修を行って、理解を深めている。				事業所の理念には、「有する能力に応じた日常生活が送れるように努めます」と掲げて、毎日のラジオ体操や生活リハビリなど、心身機能の維持に努めるとともに、利用者の生活リズムで過ごせるよう支援している。また、利用者の体調にも配慮をしながら、無理なく利用者のできることやできそうなことを、待つ介護や見守り、一緒に行うなどの支援をしている。さらに、片麻痺のある利用者には、食器を工夫するなど、自分で食べることの支援をしている。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	◎	残存機能の維持を目指して、レクリエーションを計画し、取り組んでいる。				
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	できること、できないことの把握に努め、出来ることは声をかけながら見守り、一緒に行うようにしている。	○		○	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	生活歴を把握し、役割が持てるように心がけている。				洗濯物干しやたみ、野菜の皮むきなど、利用者にも声をかけて役割や出番づくりができるよう支援している。また、ビーズ作品を作ることが得意な利用者には、作成しやすい環境づくりもしている。また、歌やパズル、ビンゴゲームなどのレクリエーションを取り入れ、利用者にも喜びや張り合いが持てるよう支援している。さらに、高齢化に伴い、より介護を必要とする利用者が多くなっているものの、「家訓」や「目標」を定め、ぬくもりのある心の安らぎと笑顔で楽しく過ごせるよう支援している。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	◎	体操や歌、パズルなどを職員も一緒に行い、声を掛けながら雰囲気づくりに取り組んでいる。	○	○	○	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	×	今年度はできていない。				

愛媛県グループホーム斎院の杜

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	着る服を決めたり、身だしなみも自分でを行い、難しい時は職員が手伝う。				職員が声をかけ、自分で髭剃りを行い、剃り残しなどの仕上げを手伝っている利用者もいる。着衣も、利用者自身で、できるところまでしてもらい、できない部分を介助している。また、靴などの履き物は、必要に応じて、家族に用意してもらっている。さらに、食べこぼしや口の周りの汚れが見られた場合には、さりげなくフォローをしている。加えて、重度の利用者にも、常に清潔な衣類に交換するとともに、整髪や顔を拭くなど、利用者に確認をしながら支援をすることができている。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みに整えられるように支援している。	○	散髪時、自分で希望を伝えたり、欲しい物を職員と一緒に買いに行く。				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	本人の好みを伺い、確認してもらいながら決めていただく。				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	外出や行動前には、身だしなみを職員と一緒に確認しながら支援する。				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にしたりさりげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	自分で出来る方にはさりげなく声をかけ、難しい時には職員と整える。	◎	◎	◎	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	○	ほとんどの方が訪問美容を利用され、楽しみにされている。				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	起床時に髪を整えたり、本人らしさが保てるように努めている。			○	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	◎	理解出来ている。				事業所には、調理師の資格を持った調理の専属職員がおり、利用者の好みと旬の食材を取り入れながら、食材の買い出しや調理をしている。休みの日には、職員が順番に調理をしている。利用者は、もやしの根取りや玉葱の皮むきなどの調理の下ごしらえなど、できることを、できる時に手伝いをしていく。利用者の状態に応じて、刻み食やミキサー食などの食事形態にも対応するとともに、彩りにも工夫をしている。食器類は、使い慣れた物を自宅から持ってきてもらうほか、使いやすい物を使用している。食事は、介助や見守りを必要とする利用者が多くあり、一緒に食べることができないユニットもある。コロナ禍において、感染対策で同じテーブルは囲めないものの、職員は少し離れた場所で見守りをしながら、同じ食事を摂ることができている。また、カウンターキッチンでの調理過程が重度の利用者にも見え、匂いや音を感じながら、食事を待ち遠しくする雰囲気づくりもしている。さらに、昔懐かしい月見団子や、ホットプレートを使用してドラ焼きを作り、あんこを入れてもらうなど、利用者にも喜ばれている。さらに、感染状況を見計らいながら、外食に出かけたり、事業所内で幕の内弁当を食べるなど、楽しみのある食事も提供できている。加えて、調理の専属職員を交えて話し合うとともに、糖尿病がある利用者にも主治医から指示やアドバイスをもらうことができている。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	○	入居者様の好みを聞きながら、季節を感じて頂けるように工夫している。			○	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	○	職員がすることが多いが、コップなどを下膳して下さる方もいる。その時には、感謝の言葉をお伝えしている。				
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○	入居前後、本人・家族から情報収集している。				
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔なつかしいもの等を取り入れている。	◎	行事食や季節感のある物を調理師と相談して提供している。			◎	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせて調理方法としつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いどりや器の工夫等)	◎	入居者様の食事形態・健康状態に応じて、刻み食やトロミを使用している。				
		g	茶碗や湯飲み、箸等使いやすいもの、使いやすいものを使用している。	◎	馴染みのあるものや本人が使いやすい物を使用している。			◎	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	○	食事介助・服薬介助がある為、一緒に食事をすることは難しい。しかし、本人のペースを大切に、見守っている。			○	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	食事前にメニューをお伝えしている。		◎	○	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	◎	チェック表を利用して、把握に努めている。				
		k	食事量が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	◎	時間をずらしたり、好みの物を提供したり、栄養補助食品を活用したりしている。				
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	◎	調理師と相談しながら、栄養バランスに配慮し、提供出来ている。			○	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	◎	手洗い・布巾等のハイター消毒を日常的に取り組んでいる。				

愛媛県グループホーム斎院の杜

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	◎	理解出来ている。				毎食事前に、利用者は口腔ケア体操を行うとともに、食後には、職員が声をかけ、歯磨きなどの口腔ケアを実施している。また、自分で歯磨きができる利用者を含めて、定期的に全ての利用者の口腔内の様子を確認することができている。また、異常が見られた場合には、訪問歯科診療につながることも、指導やアドバイスをもらうこともできている。さらに、義歯は週1回洗浄剤に浸けている。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	○	食事の時や口腔ケア時に状態を確認している。			○	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	○	訪問診療を受けている方は指導や助言を頂くが、全員ではないので検討が必要。				
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	◎	口腔内の清潔保持に努め、義歯の方は入れ歯洗浄機を使用し、管理出来ている。				
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	◎	毎食後、声掛けし口腔ケアを促し、一人ひとりに合わせて支援出来ている。			◎	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医を受診するなどの対応を行っている。	○	本人からの訴えや表情・食事量等を確認しながら、歯科医と相談しながら対応出来ている。				
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	◎	理解出来ている。				おむつメーカーの担当者に来てもらい、職員はおむつの種類や使用方法などを学ぶことができている。利用者の状態に合わせて、排泄パターンで職員が声かけやトイレ誘導をしながら、可能な範囲でトイレで排泄ができるよう努めている。また、必要に応じて、紙おむつやパッドなどの排泄用品の使用を職員間で話し合い、家族に確認の上で使用している。さらに、尿漏れによるおむつの適性を確認するため、職員がおむつ使用を試すこともある。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	◎	理解出来ている。				
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	○	排泄チェック表を利用して把握に努めている。				
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	◎	一人ひとりの状態に合わせて使用し、出来る限り、トイレを使用して頂いている。	◎		○	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	排泄・水分チェック表で状態を確認し、その都度、話し合いが行えている。				
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	排泄パターンを把握し、一人ひとりに合った声掛けを行っている。				
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	○	適切なオムツ・枚数等、職員間で話し合いを重ねている。変更がある場合は家族に報告をしている。				
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けしている。	○	一人ひとりに合わせて使い分けが出来ている。				
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	○	おやつや水分補給、運動を取り入れ、自然排便を目指している。				
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)	◎	本人と相談しながら、決めている。	◎		◎	利用者は、2～3日おきに入浴することができる。尿漏れなどの汚れが見られた場合には、適宜シャワー浴などの対応をしている。事業所の都合で、午前と午後の入浴時間帯の設定はしているものの、湯船に浸かる長さや湯温など、利用者の希望に応じて、柔軟に対応をしている。時には、入浴剤等を入れ、利用者にもいつもと違う雰囲気を楽しんでもらうこともある。また、浴室内は、職員が丁寧に清掃を行い、清潔が保持されている。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分が入浴できるよう支援している。	○	会話をしながら、楽しい時間を過ごせるように取り組んでいる。				
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	本人に合わせた支援方法で、安心して入浴して頂けるよう心掛けている。				
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ち良く入浴できるよう工夫している。	◎	無理強いせず実施出来ている。				
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	◎	必ずバイタル測定を行い、健康状態の把握に努めている。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	◎	把握出来ている。				事業所では、日中のレクリエーションやラジオ体操などの活動量を増やし、極力薬に頼りすぎない支援に取り組んでいる。また、昼と夜のメリハリをつけてもらい、夜間に利用者が安眠できるよう努めている。また、トイレの回数などで、夜間に眠れないこともあり、体調面を考えて、主治医と相談しながら、眠剤などを服薬している利用者もいる。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	日中の活動量・過ごし方を見直し、睡眠がとれるように話し合っている。				
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	出来る限り、薬に頼らないよう取り組み、夜間覚醒時、寄り添ったり、見守る。主治医の判断で薬を必要とする時は使用することもある。				
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	◎	本人のペースに合わせて、横になったり、休める機会を設けている。				
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	◎	携帯を持っている方もいる。希望時、家族との電話の支援もしている。				
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	○	年賀状は全員に書いていただいたり、支援出来ている。				
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	○	事務所の電話から家族に連絡する場合でも気兼ねなく話せるように工夫している。				
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	本人にお渡し、飾ったり何度も読まれたりされている。				
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	○	年賀状等のやりとりが継続できるように取り組んでいきたい。				
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	◎	理解出来ている。				
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	○	一緒に買い物に行き、自分で選んで購入したり、外食する機会も設けている。				
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	○	事前に連絡確認をすることで配慮して下さるお店もある。				
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	○	家族と相談し、お金を持っている方もおられる。外出時にはご自分で使えるように支援している。				
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	家族の理解の上、所持されている。各自、金銭出納帳を作成し、お金の使い道を残し、家族様に相談し明確にしている。				
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしておき、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	○	毎月、金銭出納帳のコピーと日常の様子を、家族に報告し確認して頂いている。				
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々々のニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	入居者様の希望や要望に応えられるようにその都度家族に確認しながら実施している。	○	◎	事業所では、利用者や家族の要望に応じて、可能な範囲で柔軟に対応をしている。訪問調査月の前月に行われた衆議院選挙に出かけたり、病院への受診時に職員が同行するなどの支援もしている。	



項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
(3)生活環境づくり										
25	気軽に入れる 玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	◎	季節に合わせて、花や野菜を育てたり、玄関には入居者様の作品を展示している。現在、面会制限が禁止となっている。	◎	◎	◎	住宅街にある事業所は周辺の家に馴染み、玄関が裏手にあり、初めての来訪者には少し分かりづらく感じられる。また、玄関の周辺にはプランターが置かれ、季節の花や野菜を育てていることもあり、家庭的な雰囲気となっている。さらに、玄関を入ると、利用者が作成したビーズのストラップ作品が飾られている。	
26	居心地の良い 共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気を有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものしか置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。)	◎	季節を感じとりやすいように掲示物や写真を飾り、明るい空間作りを心掛けている。入居者様と一緒に作ったり、飾りつけを行う事で達成感にもつながっている。	○	◎	○	リビングや廊下の壁面には、利用者と一緒に作った紅葉や祭りなどの季節の飾り付け、利用者の写真などが飾られている。また、ぬり絵の大作や、広告デザインの同じような色を切り抜いて集め、作成した貼り絵なども飾られ、利用者が写真や作品を見ながら、話しが盛り上がることもある。さらに、事業所内は、毎日の清掃と消毒を行うとともに、空気洗浄機を活用して換気をするなど、嫌な臭いなどを感じられず、快適な空間となっている。加えて、事業所内の照明はオレンジ色で、利用者等のまぶしさを防ぐとともに、リビングの窓から季節の移り変わりを眺めることもできる。	
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	◎	掃除や整理整頓など環境整備に努めている。					◎
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	リビングのソファで入居者様同士でくつろぎながらお話しをして過ごされたりしている。					○
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	リビングでゲームをしたり、コーヒーを楽しまれている。					
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないよう工夫している。	◎	見えない作りになっている。					
27	居心地良く過ごせる 居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	大切にしていたものを持ってきて頂き、継続して使って頂いている。	◎		◎	居室には、馴染みの物を持ち込むことができ、家族や思い出の写真のほか、賞状や折り紙などを飾っている利用者もいる。また、視覚障がいのある利用者もあり、居室内は定まった位置に道具や物品を置き、やすらぎと落ち着ける空間づくりにも努めている。	
28	一人ひとりの力が 活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	手すりを設置したり、車いすや歩行器が安全に移動できる環境設備に努めている。			○	利用者に手すりの位置が分かりやすいように、赤いテープを貼っている。トイレは感知式の自動照明となっているため、間違わないように入り口に表示をしている。また、居室には表札を付けていないものの、自室が分かるように折り紙などの目印を付けている。さらに、新聞や雑誌を置き、利用者が自由に取れるようにしている。	
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	○	トイレの看板を作ったり、手すりに赤いテープを巻いて分かりやすいように工夫している。					
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	○	新聞や湯呑は手の届く所において、好きな時に読んだりお茶が飲めるように配慮している。					
29	鍵をかけない ケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	◎	全員が施錠することでの壁面委を理解している。帰宅願望の時には外出にて気分転換を図るなど工夫もしている。	×	×	○	職員は、社内研修などで学び、鍵をかけることの弊害をきちんと理解している。2年前までは、玄関に鍵をかけていたこともあり、開放を家族に報告をしているものの、日中にも鍵がかかっていると思い込んでいた家族もいると思われ、利用者家族等アンケート結果からも、十分に伝わっていないことが窺うことができる。今後は、家族や地域住民に、周知できる工夫を期待したい。また、日中は玄関を開放し、夜間は防犯のため、施錠をしている。さらに、帰宅願望のある利用者には、職員が付き添い、外で気分転換をしてもらうなどの対応をしている。	
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	○	家族の中でも安全面を考慮して、施錠を希望される方もいるので施錠しない大切さを引き続き説明し理解を深めていきたい。					
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	○	今年度は外出機会は減っているが、帰宅願望や落ち着かれない時には、施設周辺や近くへ散歩に行くなどの対応をしている。					

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4) 健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	薬の変更点は、業務日誌や申し送りノート等で確認し、把握している。				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	○	変化が見られたら記録に残し、職員間で情報共有し、ミーティング等で対応策を検討する。				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等いつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	○	主治医や訪問看護師に連絡・相談し、対応出来ている。				
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	◎	入居の際に利用している病院を継続して利用したいか必ず確認をしている。	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	◎	本人・家族・主治医に事業所で話し、希望を大切にしつつ円滑に適切な医療を受けられるように支援している。				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	○	家族と共に同席し、希望をお伺いして施設で出来る対応について説明し同意をして頂けるように話し合いを設けている。				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	◎	緊急時用の情報提供表と施設情報を全員分作成して簡単に入居者様の情報が分かるように取り組んでいる。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	◎	医療機関の相談員と密に連絡を取り、現状や退院までの期間など情報交換に努めている。まだ得た情報は家族に報告している。				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	◎	些細な変化でも主治医に報告し、把握して頂いている。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	◎	訪問看護ステーションと契約し、定期的に状況観察をして頂いている。入居者様の状態を報告し、各主治医との連携も図れている。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	◎	訪問看護ステーションと契約しており、緊急時なども対応して頂いている。また、施設ないでの緊急時連絡体制を整えている。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	◎	日々のバイタルチェックや排便コントロール等確認し、情報共有が図れている。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	◎	薬の作用・副作用の把握に努め、わからない薬については薬情報で確認している。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	○	入居者様別で管理し、本人の前で朝昼晩・名前・日付を声に出して確認後、服薬介助を行っている。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	○	状況変化が見られる時は、主治医へ確認と相談し、安全に努める。				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	変化がみられれば記録し、主治医へ連絡し、状況把握に努めている。				

愛媛県グループホーム斎院の杜

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	◎	家族宛に看取りに対するアンケートを実施して、家族の想いや考え方を知る事が出来た。その上で主治医を交えてその都度考え方や確認、同意を得て方針を決めている。	/	/	/	事業所には、「看取りの指針」があり、入居時に利用者や家族に説明している。利用者が重度化した場合には、利用者や家族、医師などの関係者を交えて話し合い、方針を共有してチーム体制で支援をしている。また、事業所では、昨年3名の看取りを経験するとともに、訪問調査月にもターミナルケアに対応している利用者がいた。さらに、終末期のあり方などの勉強会を重ね、看取りの経験が職員のスキルアップにもつながっている。加えて、管理者等は、一人ひとりの看取りには違いがあり、感慨深さも感じている。	
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者と話し合い、方針を共有している。	◎	各主治医の看取りに関する話や対応策など話し合い、施設独自の連絡体制を作り、強化を図っている。	○		○		
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々の職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	○	家族の想いを元に職員に対応がどこまで出来るか確認し、話し合いをしながら見極めている。	/	/	/		/
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	当施設で出来る事、出来ない事がうまく伝わっていない家族もいるので、引き続き説明をしていく。	/	/	/		/
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	◎	本人の想いや家族の想いなど主治医と共に話し合いを深めて、本人の想いに応えられるように支援している。	/	/	/		/
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	面会や電話・手紙を通して近状報告や家族自身の心身に対して気にかけるように心掛けている。	/	/	/		/
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癩、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	◎	各種感染症に対してマニュアルを作成して掲示している。また、ミーティングを通して対応。対策など話し合いが行えている。	/	/	/		
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	○	感染症のセットを準備し、今年度も新型コロナウイルスの対策により面会時に、検温・食毒やマスクなど対策が行えている。	/	/	/		
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	◎	流行に備えて、最新の情報収集をし、確認して対応出来ている。	/	/	/		
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	○	地域の発生や同系列の情報収集し、予防・対策に努めている。	/	/	/		
		e	職員は手洗いやうがいなども徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	◎	手洗いうがい・アルコール消毒を徹底し、予防に努めている。	/	/	/		

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>II. 家族との支え合い</b>									
37	本人とともに支え合う 家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	◎	面会に来られた時には、生活の様子をお伝えしているが、無理な時には手紙や電話を活用している。				コロナ禍において、家族との面会制限を設けていたものの、県内の感染対策が緩和されてから、訪問調査月の前月から、10分程度の窓越しの面会を再開するとともに、訪問調査月の11月からは、15分程度の居室での面会も可能にして、利用者や家族から喜ばれている。また、ホーム便り「さやのもり」を活用して、面会の変更のほか、職員の異動や入退職、事業所の出来事なども、家族に伝えることができています。さらに、事業所には家族会があり、コロナ禍以前は年2回運営推進会議などに合わせて開催するとともに、クリスマス会などの行事に家族の参加を呼びかけて、協力を得ることもできていた。加えて、毎月ホーム便りに合わせて、お小遣い帳のコピーを送付するとともに、電話やメールを活用して、家族に利用者の様子を伝えることができています。家族には、接遇などの忌憚のない意見を伝えてもらうとともに、看取りのアンケートにも協力してもらっている。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	基本的にはいつでも来て頂けるように時間の制限はないが、コロナの影響が続いており、その都度対応させて頂いている。				
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	△	普段は行事の参加依頼を行っている。新型コロナウイルスの影響で現在は難しい。		○	○	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	◎	季節ごとに事業所便りを作成して配布している。同時に手紙を通して近状報告も行っている。		○	◎	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的な内容を把握して報告を行っている。	○	面会時やメールでの要望があるときはお伺いし、不安や疑問についてお答えしている。				
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	◎	認知症の理解について深めている。本人の生活歴など家族にお伺いしながら関係性構築に努めている。				
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	○	毎月配布している手紙に運営上変更したことについて報告している。		○	○	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	×	毎年夏祭りやクリスマス会に合わせて家族会を年に2回開催していたが、新型コロナウイルスの影響により、今年度も開催出来ていない。				
		i	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	◎	認知症の進行やそれに伴い起こりうる症状など、家族にお話している。				
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的にやっている。	◎	新型コロナウイルスで面会困難だが、必要な日用品の依頼など連絡を行っている。			◎	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	◎	契約の際には二部用意し、時間をかけて説明・同意をさせて頂いている。また、一部は家族管理としている。				
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	◎	本人の状態を説明し同意を得てから退去の話をさせて頂いている。また滞りなくサービスが利用できるように、相談援助を行っている。				
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	◎	料金改正時には文章と口頭にて説明し同意を得てから実施している。また、契約書の中に料金一覧を記載し、説明し同意を得ている。				

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>Ⅲ. 地域との支え合い</b>									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域：事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	◎	運営推進会議の際に目的や役割について地域の方々の理解を深めている。新型コロナウイルスの影響で書面での報告となっている。	/	◎	/	現在のコロナ禍において、ほとんどの地域行事は中止されている。法人・事業所として町内会に入会し、回覧板が回ってきており、必要に応じて、事業所の活動の周知にも活用することができる。また、日常的に、職員は地域住民と挨拶を交わすとともに、近隣住民が野菜などのお裾分けを持って来ることもある。さらに、3年前から、地域の農家等に協力してもらい、年末に市内のひとり親家庭に、お米を届ける活動も行っている。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	△	挨拶は行っているが、今年度もイベントが中止になっている。	/	△	○	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	△	行事が中止になっている為、地域のつながりあまり感じられない。	/	/	/	
		d	地域の人気が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	○	野菜や食材をお裾分けをして下さる方もおられる。	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	○	以前より、挨拶をして下さる地域の方が少し増えた。施設に気軽に来られる事はほとんど見られない。	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	○	運営推進会議が書面での開催になっている為、町内会長さんや防災士さんの所には足を運ぶ事で予定を教えて下さる。	/	/	/	
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	○	近所にあるスーパーまで車いすやシルバーカーを押して買い物にでかけ、気分転換を図っている。	/	/	/	
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	×	近隣のスーパーや喫茶店をよく利用している。関係を深める取り組みまでは至っていない。	/	/	/	
40	運営推進会議を活かした取り組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	○	利用者家族・地域の方には案内を配布して参加して頂いている。今年度は書面での開催のみになっている。	○	/	○	運営推進会議は、家族や町内会長、地域の防災士、地域包括支援センター、市担当者などの参加を得て開催している。会議室に限りがあるため、参加者数を制限せざるを得ない状態となっている。現在はコロナ禍のため、文書開催となっているものの、事前に資料を町内会長や地域の防災士の自宅を訪問して渡し、意見を聞くことができている。また、会議では、事業所での活動状況や評価、要望や助言への回答などを実施している。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。	◎	近状報告をする際に、実際の写真を織り混ぜながらその時の入居者様の表情など見て頂いている。また、外部評価後の運営推進会議では、助言を頂いた事を一覧にして説明している。	/	/	◎	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	◎	家族や地域のかたには要望や質問の場を設け意見交換を大切にしている。	/	◎	◎	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	◎	家族や地域の方に意見をお伺いしながら日程を決めている。参加者は同じメンバーが多いが参加して頂ける家族は増えた。	/	/	○	
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	◎	松山市介護保険課に提出している。また、玄関に掲示したり、報告書を家族に配布して理解を深めている。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>IV.より良い支援を行うための運営体制</b>									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	◎	理念に基づき家庭的な施設を目指している。見える所に理念を掲示し、統一したケアを目指している。				
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	◎	玄関や共有スペースに掲示している。入居案内や契約時にお渡ししているパンフレットにも健司している。	○	○		
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者:基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	研修案内を掲示して参加を促している。また職員個別に研修参加を促し、知識向上に努めている。				定期的に、代表者は事業所に来訪し、利用者や職員の話しを聞くとともに、職員の自主性を尊重しながら、職員が自ら考えて失敗しても、次につなげることを伝えている。また、今年4月から現場経験の長い管理者に交代し、職員の意見を聞くとともに、利用者の個別ケアにも取り組んでいる。また、定期的に社内研修や勉強会を実施して、職員のスキルアップに努めている。さらに、代表者は管理者とともに、何でも話し合える風通しの良い職場環境づくりにも取り組んでいる。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	◎	日頃から話し合える関係づくりを目指し、職員のスキルアップのためにこの能力を見極めている。				
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	◎	資格取得や研修参加をし、スキルアップのをする事で役割・役職を設け意欲向上に繋げている。				
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	◎	社外研修や連絡協議会を通して他事業所と交流をしたり、同系列内で行事に参加し交流を深めている。				
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	毎年ストレスチェックを行い、状態把握に努めている。		○	◎	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	○	マニュアルの見直しや社外研修に参加する事で知識を深めている。社外研修で得た知識を社内研修で還元し全員で知識向上に努めている。				虐待防止等をテーマにしたオンライン研修に職員が参加するとともに、事業所内で伝達研修を行い、職員間で情報を共有している。また、事業所では、スピーチロックや薬物ロックが起こらないよう取り組んでおり、職員は意識した対応をしている。さらに、声かけなどの不適切な行為が見られた場合には、職員同士で注意喚起をしている。加えて、職員一人ひとりの考え方は様々であるものの、基本的な考えや取り組みは共通であり、利用者を観察しながら、個別に優しさのある支援に努めている。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	◎	入居者様のケア面や業務内容について日頃から話し合える関係作りが出来ている。				
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃ごされることがないように注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	◎	マニュアルの見直しや社外研修に参加する事で知識を深めている。社外研修で得た知識を社内研修で還元し全員で知識向上に努めている。			◎	
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	定期的にそ相談する機会を設け、職員の体調や精神面の配慮を行っている。				
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	◎	社内研修を行っている。				
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	◎	マニュアルの見やすい所へ置き、理解を深めている。また、ミーティングをでも話し合う機会を作っている。				
		c	家族等から拘束や施設への要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	△	運営推進会議や家族会で身体拘束の話をしているが、今年度は新型コロナウイルスにより実施出来ていない。				

愛媛県グループホーム斎院の杜

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを理解している。	○	研修に参加し、理解を深めているが、理解出来ない職員もいる。ので資料配布をして周知を図っている。	/	/	/	
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	○	家族からの要望はないが、パンフレット等で情報提供したり、相談にはいつでものれる支援はしている。	/	/	/	
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	○	連携がとれるように体制を築いている。	/	/	/	
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	◎	マニュアル作成し周知し、統一した対応ができるように努めている。	/	/	/	
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	○	訓練はしているが、全職員が対応できるとは言えないので、今後も訓練し周知していく。	/	/	/	
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	◎	ヒヤリハットを作成し、未然に防ぐように努めている。ミーティングでも話し合いを行っている。	/	/	/	
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	◎	一人ひとりの状況把握に努めている。リスク面についても話し合いが出来る。	/	/	/	
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	◎	マニュアルを作成し、対応出来る。	/	/	/	
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	苦情相談窓口を設置して担当者が対応できるようにしている。専用紙を作成して、記録に残すようにしている。	/	/	/	
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	◎	苦情があった場合には、その都度対応し、繰り返し起こらない対策を考えて取り組んでいる。	/	/	/	
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	◎	居室・外出時に話を聞ける関係と雰囲気作りを目指し、努めている。	/	/	◎	日常的に、職員は利用者の会話に耳を傾け、意見や要望を聞き、対応をしている。居室や入浴時など、利用者とは1対1になる機会を活用して、話を聞くことが多い。家族からは、面会時や電話連絡時、メールを活用して、忌憚のない意見や要望を言ってもらえるよう伝えている。また、管理者は申し送り時や職員の業務終了時に声をかけ、ちょっとしたことでもスタッフルームで相談や話しを行うことができている。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	◎	面会時や携帯でのメールで意見や要望を聞けるように配慮している。	○	/	○	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	◎	契約書の中に公的や機関の窓口も掲載している。	/	/	/	
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	○	ミーティングや個別で意見を聞く機会を設けている。	/	/	/	
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	ミーティングや個別で意見を聞く機会を設けている。入居者様主体で考え、本人の想いが繁栄出来るように努めている。	/	/	○	

愛媛県グループホーム斎院の杜

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	◎	毎年、自己評価を行っている。				外部評価の自己評価は職員全員で取り組み、各ユニットで職員の意見を集約しながら作成している。また、自己評価で出された課題も、ミーティング等を活用して話し合いをしている。また、サービスの評価結果や目標達成計画は運営推進会議で報告をしている。さらに、会議の参加メンバーや家族から意見をもらうことはできているものの、取組み状況のモニターまでには至っていないため、コロナ禍の収束後には、家族や会議の参加メンバーにモニターの協力を呼びかけて、意見交換ができることを期待したい。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	○	評価を通して事務所の強みや課題を見つけ、改善に努めている。				
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	◎	結果をもとにミーティングで話し合い改善に向けて取り組んでいる。また、運営推進会議を通して家族・地域に報告をしている。				
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	○	評価後の運営推進会議や家族会の際に報告する事や資料を配布して知って頂けるように努めている。	○	△	○	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	○	運営推進会議の時に達成できた所は報告し、出来なかった所は助言を頂いている。				
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	◎	各種マニュアル作成し周知している。				事業所では、年2回避難訓練を実施し、消防署へ結果報告書を送付している。防災の本を職員全員に配布するとともに、チェックリストも作成している。また、事業所のある地域は、松山市のハザードマップの対象地域となっており、避難計画も作成している。さらに、災害時の地域との電話連絡体制などを構築するとともに、運営推進会議の参加メンバーでもある防災士と話し合うことができていた。コロナ禍以前は、地区の防災訓練にも参加協力することができていた。加えて、事業所の防災計画を家族に説明することもできている。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	◎	今年度も自主訓練にて手順の確認を行っている。				
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	◎	チェックリストを作成したり、わかりやすくまとめている。				
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	○	電話や手紙を通じて協力体制の確保は出来ている。	○	○	◎	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	○	今年度も新型コロナウイルスの影響により、地区の行事がなく、参加できていない。他施設との関係作りが良好になるように努めている。				
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	○	今年度は地域に発信する活動は行っていないが、来て頂いている地域の方々には、書面で運営推進会議の報告書を配布している。				事業所で相談支援ができることを知らせるため、2年前に介護相談の看板を設置したものの、市内には地域包括支援センターや居宅介護支援事業所等もあり、今のところ相談事例はない。また、地域包括支援センターの地区連絡会に参画するとともに、市担当課等と連携を図ることができている。さらに、法人・事業所として、SDGsの活動にも取り組み、3年前から地域の農家等に協力してもらい、年末に市内のひとり親家庭にお米を届ける活動も行うとともに、東温市社会福祉協議会が実施するフードドライブにも協力するなど、地域にも貢献することができている。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	○	看板に大きく介護相談の案内を掲示しているが、支援の実施は出来ていない。支援発信している。			○	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	△	新型コロナウイルスの影響により、参加出来ていない。				
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	×	受け入れには、協力をしているが、新型コロナウイルスの影響により、今年度は参加して頂く事は難しい。				
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	○	地区の連絡会に参加し、他施設との関係作りを目指している。			○	